

「大阪の文化についてのアンケート」結果

○趣旨

文化振興新戦略のアウトカム指標6項目を補足するため、より短期の期間（この1年間）に府民が経験・実感したことを聞き、文化行政に対する府民意識の把握に資する。

○手法

おおさかQネット（インターネットを通じたモニターアンケート）

回答数1,785人（回答率70.4%）。期間：1月6日～15日。府HPでの公表：1月30日

○結果のポイント

■次世代による文化芸術施設の利用や文化芸術活動の実施・参加については、4割前後から高いもので8割弱。

- ・お子さんが、美術館、音楽ホール、映画館など文化施設を利用したことがある 78.3%
- ・学校や稽古事などで、子どもが芸術文化に対して何らかの活動をしている 48.4%
- ・地域の学校や園がプロの芸術家による演奏会等の文化芸術活動を定期的実施している 41.9%
- ・小中高生が地域の文化・スポーツ活動に参加しやすい環境が整っている 38.1%
- ・子どもが取り組みたい文化芸術活動について、それを学ぶ機会や場がある 35.1%

※一方、取り組みに工夫が凝らされている、場の提供が十分との認識では、若干低くなる。

- ・小中高生が地域の美術館やコンサートホールを利用しやすいよう工夫されている 27.6%
- ・小中高生が文化活動を発表できる場が十分に提供されている。 32.1%

■文化を支えるイベントやボランティア活動への参加意欲は3割を超えているが、実際に参加経験があるとする人は若干低くなる。

- ・文化を支えるイベントやボランティア活動などに参加したいと考えたことがある 30.3%
- ・文化に関するボランティア活動や講座等の文化に関する集団活動に参加した 23.1%

■芸術活動を通じ「まちづくり」に参加する仕組みが充実している、世界からアーティストが集まる、内外と活発に交流するまちであるとの認識は1割台。

- ・府民が芸術活動を通じて、まちづくりに参加する仕組みが充実している 17.9%
- ・大阪には世界中からアーティストが集まってきている 12.4%
- ・海外や他県等との文化芸術の交流が活発である 11.8%